



会長 橋本八右衛門 青少年奉仕 正部家光彦
副会長 妻神 和憲 幹事 小田山紀暢
クラブ奉仕 石橋 信雄 会計 岡崎 孝文
会長エレクト 山崎 和芳 会場監督 鶴飼 寿栄
職業奉仕 小井田和哉 直前会長 紺野 広
社会奉仕 深澤 隆 副幹事 中村 稔彦
国際奉仕 深澤 隆 会計補佐 浜谷 英幸

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 宮下 悟 同副委員長 峯 正一
同委員 松林 拓司 同委員 上村 奉樹

国際ロータリーのテーマ — 2024~25 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーのマジック

学ぼう、つながろう、そして一歩前へ！
～個人を磨くとクラブも輝く！再構築ロータリー～

国際ロータリー会長 ステファニーA.アーチック

八戸ロータリークラブ会長 橋本 八右衛門

7月 は 新 会 員 の た め の 月 間 で す

第3319回 公式訪問例会 2024.7.3

▶ ゲスト

国際ロータリー第2830地区

ガバナー 花田勝彦さん (五所川原)

ガバナーエレクト 米谷恵司さん
(青森モーニング)

南グループガバナー補佐 島浦 理さん
(八戸西)

地区副幹事長 平山敦士さん (五所川原)

地区社会奉仕・職業奉仕委員
長谷川 通さん (五所川原)

▶ ビジター

地区クラブ拡大・会員増強委員長
吉田賢治さん (八戸南)

会 長 要 件 橋本八右衛門 会長



本日は新年度第1回目の例会です。それに合わせてガバナー公式訪問ということで、たくさんのご来賓をお迎えしています。先程から会長幹事面談、クラブ協議会そして例会と続いて参りました。昨年は準備もいろいろあり、こんなに忙しいんだと思いましたが、何となく第1

回目ということで、こんな形で始まってしまいました。本当にクラブ協議会でも委員長の皆様からいろいろお話で発表いただきましたが、皆様に支えられて本年度精一杯クラブの皆様のために、そして地域のために頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

課題としては心洗われる会長要件ということでPETSから引きずっておりますので、その辺を工夫してやっていきたいと思っています。本日はこれから第2830地区花田ガバナーからご講話をいただきますが、そもそも地区の部分に関しては話を聞いたり、地区大会に皆で行くと声がかかったりしますのでけっこう意識をしますが、今、八戸クラブはどこにいて、国際ロータリーはどういう組織的形になっているのかということを知っていただくにはいい機会だと思って、A4 1枚の資料をボックスの中に入れてさせていただきました。手元にございますか。われらが八戸ロータリークラブは青森県の中の南グループに存在しているわけです。南グループは9クラブあります。例会の中で確認しながら一歩ずつ進めて参りたいと思ってい

ますので、よろしくお願ひいたします。

われわれのクラブ、国際ロータリーがどのような区分けになっているかですが、われらがロータリークラブは今会員数は66名。青森県内の南グループに位置しています。南グループには9クラブあり、合わせて昨日現在で合計273名です。他に2830地区は青森県全体のごとで6グループあります。クラブは合わせて40クラブ、1,093名です。青森県2830地区はロータリーの友に載っている日本地区を見ると、日本には第1～第3ゾーンあります。日本には2,205クラブあり、83,480人の会員がいます。(ロータリーの友4月末現在)国際ロータリーを区分けしますと全世界で34ゾーンあり、520地区に36,929クラブ、1,181,107名のロータリアンがいます。この地区でいろいろな方がロータリアンの活動を支えています。これを深く突き詰めるといろんな面白いことが出ていますので、ご自分で調べて勉強してみるといいかと思ひます。

きょうの会長幹事面談でもそうですが、できれば当然今度は南グループの合同例会もありますので、当然南グループの催し物には積極的に参加していただきたいですし、先程もロータリーの勉強には地区の開催するRLIが最適だと言われましたので、こういう地区の催しにも皆で背一杯出ていくように仕向け

たいと思ひます。わたしもさらにこういうことを考えながら勉強していきたいと思ひております。どうぞご協力のほどよろしくお願ひいたします。わたしも地区までは分かっていましたが、ゾーンとは何ぞや、ということていろいろ調べてみると、こうだったと改めて感じた次第です。来週は会長方針についてしっかりお話ししたいと思ひます。

幹事報告 小田山紀暢 幹事



○7月25日(木)は南グループ合同例会です。18:30～プラザホテルです。

出欠は7月8日までに事務局までお知らせください。

○レターボックスに上半期会費納入のお知らせが入っていますのでご確認お願ひします。

委員会報告

親睦・会場委員会

竹石 雄委員長



○ニコニコボックスの報告
花田勝彦ガバナー
米谷恵司ガバナーエレクト
島浦 理

南グループガバナー補佐

ガバナー講話

「個性輝くロータリー」

国際ロータリー第2830地区 ガバナー 花田 勝彦さん(五所川原)



きょうは公式訪問の1回目で準備をして参りました。初めて卓話をさせていだきま

す。きょう新しい紙幣発行の記念すべき日ということで、どうも報道によりますと青森県ではこの新札が手に入らないということで、できればきょう新しい1万円札を持ってきたいと思ひていたのですが、明日以降になりそうです。ただきょうは記念すべき日にこういう形で卓話をさせていだくと

いうことは何かのご縁かと思ひています。

まずは築館智大直前ガバナーと石橋信雄幹事長をはじめ、ホストクラブでありました八戸ロータリークラブへの感謝を申し上げたいと思ひます。築館直前ガバナー、1年間本当にお疲れ様でございました。いろいろお世話になりました。まずはラインを通じて電話をしたり、いろいろな形でお世話になっております。引き続きご指導をいただければと思ひております。

重点事項は会員増強、ポリオ根絶、DEI

促進、My Rotaryの活用で、築館直前ガバナーが挙げられた4つの事項はわたしも引き続き重点事項として理解しております。きょう来ていますが、ロータ君が、これもぜひいろんな形で活用させて頂きたいと思っております。築館直前ガバナーがこの地区の中で初めてこういう形でおやりになられましたので、何とかいい形で公式キャラクターをつなげていければと思っている次第です。今年度は“副ガバナー”という形で築館直前ガバナーにはいろいろ形で、予定が重なったりするときにお世話になると思います。引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

さらに石橋直前幹事長は今度は会長エレクトというお立場ですが、ホストクラブのまとめ役としてたいへんご苦勞だったと思います。昨年のいろいろな経験を踏まえてお世話になりたいと思っておりますので、宜しくお願ひいたします。

自己紹介から簡単に始めます。1968年生まれの55才です。弘前で生まれ、鶴田で育ちました。中学・高校は弘前で、大学で金沢に参りまして、その後、東京でしばらく司法浪人をしていました。1991年～1996年まで浪人して、1998年に研修を終わり、最初は東京で弁護士をしていました。2002年に五所川原に戻って事務所を開きました。昨年法人化をして現在に至っています。

ロータリー入会のきっかけは2003年10月に事務所を開いて1年ちょっとくらい経って、いわゆるイソ弁さんが勤務弁護士が入ることがあり、それをきっかけに当時仕事上お付き合いのあった山崎淳一パストガバナーをはじめ何人かのうちのクラブのメンバーが、花田先生もそろそろいいんじゃないかというふうな言い方をされ、“そろそろいい”というのは何のことだろう？ 全く意味がわからなかったのですが、あれよあれよという間に、当時のうちのクラブの会長だった増田正勝さんのスポンサーで五所川原ロータリークラブに入会することになりました。2004年1月のことです。ですからロータリー歴は20年になります。当時35才だったので、ベテラン会員

がたくさんおり、たいへん可愛がってもらいました。自分のおじいちゃんの年代から、お父さんよりも上の方がたくさんいらっしゃいまして、ひじょうに刺激を受けた思い出があります。

その後、2008-09年度にクラブ幹事。当時五所川原ロータリークラブは50周年でした。50周年の会長を津軽鉄道の沢田さんで、その幹事をやれということがあり、山崎ガバナー年度のクラブ幹事を務めました。その時初めて国際大会に参加しました。イギリスのバーミンガムでちょうど100回目の国際大会の機会に恵まれ、初めて事務所を1週間近く開けて、国際大会に参加するのを経験しました。ひじょうにいい経験をさせていただいたと思っています。ロータリーが国際組織だということは頭ではわかっていますが、なかなかそれを実感する機会はそれまでありませんでしたので、本当にいい経験をさせていただいたと思いました。

2011年、東日本大震災のあった年にクラブ会長をやりましたが、なかなか大変だったと思っています。ただ先ほど橋本会長もおっしゃっていましたが、自分が会長だった1年に何ができたかと今思い返しますと、ひじょうにまだまだできたはずなんだけれど、という思いが残った1年だったと、今にして思ったりします。その後、2015年に鈴木唯司ガバナー年度で地区職業奉仕委員長をさせていただきました。今も9年目の青森大学じょっぱり経済学をやっている、何人かの方にも講師としてお世話になりました。委員長を5年やらせていただきました。その後、成田年度の地区幹事、ノミニー、エレクトということで今日に至っています。

当時八戸ロータリークラブには2016年1月27日に卓話に来ています。地区職業奉仕委員長として職業奉仕月間に卓話を依頼、「職業奉仕を考えてみる」というタイトルでお話をさせていただき、あの時はたいへん緊張したと思っています。改めて見直してみると、このときのパワーポイントはちょっと恥ずかしくてお見せできないくらいのものでした。

弁護士の仕事とロータリーということで、その頃は地区の職業奉仕セミナーで講演の機会をいただくことが多少増えてきました。2014年北山ガバナー年度のときに「弁護士からみた職業奉仕」というテーマでお話をさせていただきました。これは憲法とロータリーという視点からいいますと、2013-14年にかけて、エルムの文化センターで一般の方々を対象に全6回で日本国憲法の話をしていただく機会に恵まれて、いろいろ考える機会があったなと思返しています。

そのうえで、先程もちょっと触れましたが、ガバナーに挑戦して現在に至るということです。その中で2024年1月7日からの国際協議会はひじょうに大きな経験だったと思います。ちょっとだけ振り返ってみますと、1月7日~12日にアメリカのフロリダ州オーランド ローゼンシングルクリークということで、その前の年に築館さんも研修された同じ場所で研修をさせていただきました。場所的にはアメリカの東の南の方、フロリダ州オーランドで缶詰になって勉強しました。このような割ときれいな国際協議会の会場で、「Welcome to the International Assembly」とわれわれを歓迎していただける横断幕と一緒に5日間の日程を過ごしたことになります。

開会、本会議前の様子は人種のるつぼのようなたくさんの方が、インドのサリーを着ているご夫人方など、ディスコミュージックがかかって、本会議前にみんなワイワイガヤガヤやっています。そして初めて出会った方と写真を撮ってくれないかなど、いろんな出会いがありました。こんなイメージで協議会が始まるのかとけっこうびっくりしました。これは面白いと思ひまして、三大研修の時に、DDTS、PETS、DTAという中で真似をしてみようということでスタートに音楽をかけてみたりして、リラックスした雰囲気が入ることがありました。

本会議場は他の日本のガバナーエレクトと写っていますが、ひじょうに活気が感じられたらいいかなと思っています。テーマごとに本会議があり、スピーチがあり、そのテーマ

に基づいて分科会と言う形で、PETSのセッションと同じような形になっています。われわれガバナーエレクトもコの字型になってファシリテーションをやります。これがわたしが唯一経験した国際的なファシリテーションでした。日本人だけじゃない。外国の方も入ったファシリテーションを1回だけ経験することができました。同時通訳でやるということで、外国の方でほくの隣の方がファシリテーターだったのです。このような経験もひじょうにかけがえのない、そのような経験をさせていただきました。ほくの後ろの方にも外国の方がいて、このようなファシリテーションを経験することができました。

ステファニー・アーティックさんのテーマ講演のスターティング部分をちょっとだけ、声もお聞きいただければと思います。

最初にこんな形で出てきて、Irresistibleという単語を好きな言葉として使います。抗えない、とてつもなく魅力的な みたいな意味で使っていらっしゃいます。そういう皆さんとご一緒できてたいへん光栄です。皆さんはわたしのファミリーだということからお話が始まって、ずっとそのテーマの話に入っていきます。たいへんもりだくさんの話でした。ポリオの話から入って、最終的にはテーマはロータリーのマジックということになるわけです。その中でこのアクションプラン（行動計画）をしっかりとやっていきたいとおっしゃっていました。テーマは「**ロータリーのマジック**」(The Magic of Rotary)です。

アーティック会長の優先事項、イニシアチブを振り返ってみたいと思います。アーティック会長は会員増強を図る行動計画を推し進めることが第一目標で最優先課題ですとおっしゃっておられます。3アローリングゴールズ。3年間の目標を立てて欲しいということをおっしゃっています。1地区純増100名+4クラブ設立という具体的な数値目標も上げていらっしゃいます。それはわれわれの方でもできる限りで対応していきたいと思っています。

ロータリーのマジックでクラブの経験を魅力的なものにする。先ほどのIrresistibleという魅力的なクラブ作り。去年はたぶん“元気な”クラブ作りのような言い方だったと思います。内容はそんなに変わらないでしょう。いいクラブを作って、会員増強につなげましょうではないかと理解しています。

3つ目は積極的な平和を通じて分断された世界を癒す。先ほども唱和しましたが四つのテストを平和構築の手段だと位置づけておっしゃっています。ちょっと目新しい。四つのテストをしっかりと実践していけば、それは平和につながるのではないかと。おっしゃっているのはそんなことです。もう一つはピースポール（平和の柱）をぜひやっていきたい、こんなお話をされていました。

4つ目は継続性と変化のバランス。継続性はやはりワイヤールールから、クラブでいうと会長エレクト、ノミニ、あるいは直前の皆さんが手を取り合って、そこをきっちりやって欲しいということ。もう一つはクラブに根付いた奉仕活動。ずっと今までこういうことをやってきたということは大事にして欲しい。このようなお話をされていました。

地区スローガンは「個性輝くロータリー」です。何度か皆さんもご覧いただいているかと思えます。その地区スローガンに対する思いということで、ちょっとだけお話しさせていただきます。ロータリアンもロータリアン以外の人も自分自身の個性を十分に発揮できるロータリー、これを目指したい。同時に他人の個性をも同じように重視する思いやりのある立ち振る舞いができるロータリーでありたい。というところが、これがわたしの考えであります。

自分だけじゃなくて、やはり他人の個性を大事にしていきたい。そんなような優しい気持ちでロータリアンとしていきたい。これが一つ目です。

二つ目はわれわれのような小さい地区、メンバーの少ない小さいクラブでもロータリーの理念に沿った充実した活動を継続することで社会に貢献したり、平和につながる大きな

成果をきっとあげることができるのではと思っています。もちろん八戸クラブは地区をリードしていただくクラブではありますが、小さい地区もあります。一人一人のロータリアンもまだキャリアの浅いロータリアンもいるかもしれない。それでも個性を存分に発揮していただいて、充実したロータリーライフを過ごしていただきたいという思いで、このようなスローガンにさせていただきました。

法律家としては個人の尊厳という、これを規定した既定した憲法13条があります。日本国憲法でもっとも重要な条文というふうに言われています。その13条を最高の価値とする日本国憲法の理念というものをわれわれは勉強してきましたが、ロータリーの理念が同一の基軸上にある、同じような考え方でとらえるべきなのではないかというふうに漠然と考えていました。徐々にそういう考えは具体的になりつつあるのかと、自分でも理解しているところです。

ここでロータリーの理念という話は、皆さんご承知のところだと思いますが、ざっと復習していきますと、ポール・ハリスの寛容さ（Tolerance）というところから始まり、シャルドンの最もよく奉仕するもの、もっとも報われる（He Profits Most Who Serves Best）。1911年フランコリンズのService not selfからService Above Self（超我の奉仕）というのがロータリーの第一モットーとなるのが1950年です。

道徳律というのがあります。1915年に倫理群という言い方をする場合もあります。根本は人類愛、思いやりというふうなことをベースにした道徳律です。これはロータリアンの互惠主義を否定したということです。ポール・ハリスの時代はご承知の通り、お互いが設けるように、うまくいくようにというところから始まっています。それはその仲間だけではなく、それはもっと外に奉仕すべきだろうというところが、その当時のシェルドンの考え方です。そうじゃないとクラブは続かないということがあったと思います。それが道徳律というところでは。その後、決議23-34と

いう有名な1923年の国際大会の決議があります。

四つのテストは1932年、ハーバード・テラー。ここあたりで職業奉仕が確立してきます。その後、1935年にロータリーの綱領、今は“目的”という訳し方をしていますが、奉仕の理念、奉仕の理想（The Ideal of Service）というところでも、やはり他人のことを思いやり、他人の助けになるというチェスリー・ペリーのことばがあります。

そこから時代は下がってきて、2007年にコア・バリュー（中核的価値観）は親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ。これは今盛んに言われている中核的な価値観です。その後2019年、戦略計画としてのロータリーのビジョン声明が出てきます。さらにアクションプラン（行動計画）そしてDEI。これは2019年～2021年に多様性、公平さ、インクルージョンへのロータリーのコミットメントというものが出されて今日に至っています。5つの中核的価値観。ビジョン声明は「わたしたちは変化を生むために手を取り合って行動する。」そこと一緒になって4つのアクションプランが出てきます。DEIは多様性、公平さ、インクルージョン。

ではこういうような理念から現在変化していると言われてはいますが、どうだろう。自分自身のロータリー観を築くという観点から見たらどのように考えたらいいのか、自分自身でいろいろ考えてみました。あなたはなぜロータリーの会員であり続けているのですか？ということ自分自身に問うてみたわけです。そうすると、わたしはやはりロータリーの価値観を共有する親睦（Fellowship）と他人への思いやりからくる奉仕（Service）。

ロータリーの根幹は親睦と奉仕の積み重ねにあると、うちのクラブの山崎淳一パストガバナーはよくおっしゃいます。わたしなりに親睦と奉仕は何だろうと考えたときに、特に親睦はFriendshipではなくFellowshipだとよく言われます。これはちゃんと一つの目的に沿って、目的に則った友だち、友情。これが親睦であって、それがフェロシップである。ロータリーの友情は単なるお友だちではない

こと。これがひじょうに大きな意味があるのではないかというふうにわたしなりに考えています。そして奉仕というのは他人への思いやり、利他です。そこにあるんだろう。そういうような活動をやはり職業を通じて、あるいは個人的、社会的に実践していくことによって人格を磨いていくのだろう。これがたぶんロータリーの自分の中での価値観や本質なのかとわたしの中では今、思っています。

先ほどちょっと振り返りましたロータリーの伝統的な理念と近時の変化もよく言われるところだと思います。最近ロータリーは変わったじゃないか。RIは何をやっているんだ、という声はよく聞くところだと思います。そこはわたしの中では近時の変化、先程の中核的価値観やビジョン声明（DI）は、これが生まれた背景を考えると、これは恐らくロータリーは今後変化していくことが必要なのかどうかということをもまず考えるのだろうと思います。

ロータリーは変化していくべきなのか、どうなのか。考えたときにいわゆる立法事実はあるか。そのように変化する必要があるのかどうかは、何をもってそこを考えるのか、みるのか。一つは会員の減少ということがあると思います。会員が減っているでしょう。ロータリーは今までいいんですか？このままでいいんですか？というのが一つはわかりやすいことだと思います。さらにその先に控えるものは何だろうか、ということもあるでしょう。会員が減っていったロータリーはどうなるのだろうか。だから変えなければいけないですか、それとも変えなくてもいいんですか？というところをまず第一番目に考えるのだろうなというふうに理解しています。

2つ目ですが、仮に変化が必要だとしても、それは伝統的理念を理解して学ぶ必要はあるのだろうと思います。それを放棄して、今の新しいものに飛びつくということではなく、新しいことだけを振りかざして伝統を軽んじてはいけないうらな。そのためにもやはり昔の古き良きロータリーもしっかり学ぶべきだろうなというふうに考えています。

3つ目、どのように変わるべきなのか。それはやはり伝統的理念とその変化の調和ということが大事になってくるだろうと思います。その手法を考えて実践していただくというふうに思っています。それはどうやってやるのですかということをご希望で、皆さんの考えをぜひ実践していただきたいというのが、わたしの考えです。

さて、伝統と変化をいかに調和するかの、ざっとした考えですが、試案というか私論ですが、まずはやはり楽しいと思えるのかということはあると思います。ロータリーに来て楽しくなければ、それはやっている意味がありません。その上でやはり他者への思いやりの心というものを持った、さらに謙虚な振る舞いということを中心に考えながら、伝統と変化を調和していくべきなのではとわたしなりに考えているところです。

法律家にいうと、紛争解決の視点からの紛争予防をよくやります。仮にこのことをやったら、裁判をやったら勝てるか負けるか考えるわけです。勝てるんだったらOKだろうし、負けるようなことをやったらだめでしょう。簡単にいうとそんな話です。そのために紛争を予防するためには解決方法を知っていなければいけないと考えると、伝統と変化をどう調和していけばいいだろうか。つまり大変なことになる前にいかにどうならないように予防していくか、という観点から考えることができるのでは。まだ私案かもしれないですが、ちょっとそんなことをイメージしています。

DEIと日本国憲法という、ちょっとわたしなりに考えたことがあります。先ほどの13条は多様性（Diversityダイバーシティー）なんです。これが個人の尊厳です。14条は最近朝の連ドラで新憲法の14条をよくやっていますが、これは実質的な平等ということで公平性（Equity）、インクルージョンはいろんな条文があると思いますが、生存権の25条や13条、憲法全文がここに当たってくるのではなからうか。ここはもう少し掘り下げていって、このような形で憲法もできているし、DEIはこういうふうを考えればいいの

ではないかという話が披露できればいいかなと思っています。

ロータリーの伝統的理念を歴史的な観点からまず学んで、自分のロータリー観や人生観を確立していくということをわたし自身続けていきたいと思っています。他方で現在の状況に安住せず、変化を続けることの大切さも理解して、柔軟性を失わない、学びを深めてロータリーを楽しんでいきたいと思っています。ロータリーの変化は究極的にはわたしたちの大好きなロータリーを失わないようにするためのものではないだろうか。先ほど会員減少の話から、これが続くと失われるのではないかという危機感を持つべきではないかと思っています。せっかくのこのクラブが無くなってしまったらどうしよう。そうならないためにわたしたちは手を打っていきたい、変化に柔軟に対応していきたいと思っています。

そのためにも他者への思いやりをもって「ロータリーのマジック」と「個性輝くロータリー」、これを実現していきたいというふうに思っている次第です。この1年間よろしくお願いします。



会長謝辞：橋本八右衛門会長

花田ガバナー、本当にわかりやすいご講話をありがとうございました。PETSや地区協議会のときに聞いた話とまた違った、分かりやすいお話だったと思います。本当にその考え方を基にして、それも含めてクラブの今年度の方針も作らせていただいていますので、皆で頑張って参りたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。